

学校現場における業務改善に向けた取組方針

平成 30 年 3 月

相模原市教育委員会

(令和元年 10 月最終改訂)

目 次

はじめに	1
本市の教員の在校時間等の状況	1
目的（目指す姿）	1
目標	2
進め方について	2
スケジュール及び効果測定	2

7つの視点

1 意識改革と学校運営マネジメントの強化	3
2 学校における徴収金事務の改善	3
3 部活動における負担の軽減	4
4 専門スタッフの拡充や職場環境の改善	5
5 学校におけるICT活用の推進	5
6 調査・アンケート方法等の見直し	6
7 会議及び研修の精査・精選等による効率化の推進	6

以下、「取組事項」における着手対象については下記のとおりとする。

（教）：教育委員会が取り組むこと

（学）：学校が取り組むこと

（教・学）：教育委員会と学校が連携して取り組むこと

～はじめに～

学校が抱える課題はより複雑化・多様化しており、教員に求められる期待や役割は拡大している。その結果が、教員の長時間勤務という形となって表れており、全国の教育委員会においては、「学校現場の働き方改革」の実現に向けて早急な取組が求められている。

教員の長時間勤務の改善は、教員が児童・生徒と向き合う時間の確保や学校現場での優秀な人材確保という観点からも重要なものとの認識から、本市では、平成30年3月に「学校現場における業務改善に向けた取組方針」(以下、「取組方針」という。)を策定し、留守番電話の全校設置やスクール・サポート・スタッフの導入など、教員の負担を軽減するための様々な取組を進めてきた。

取組を進めている間にも、平成31年1月に中央教育審議会において、「新しい時代の教育に向けた持続可能な学校指導・運営体制の構築のための学校における働き方改革に関する総合的な方策について(答申)」が取りまとめられ、国においては、「公立学校の教師の勤務時間の上限に関するガイドライン」が示されたほか、平成31年3月に文部科学省事務次官通知「学校における働き方改革に関する取組の徹底について」が発出されるなど、取組の強化が求められていることから、今回、「取組方針」の改訂を行い「学校現場の働き方改革」の更なる推進を図る。

～本市の教員の在校時間等の状況～

- 教員の平均時間外勤務時間(在校等時間から所定勤務時間を減じた時間)

平成30年11月から令和元年6月までの平均時間外勤務時間の結果(月平均)	
小学校	51時間28分
中学校	62時間30分

- 1か月の平均時間外勤務時間が45時間以内の教員の割合(平成30年11月から令和元年6月まで)

45時間以内の教員の割合	
小学校	43.4%
中学校	32.5%

- 教員の長時間勤務に対する意識の変化に関する意見

- ・膨大な業務の根本的部分での縮減が必要。
- ・意識は変わってきてつつあり、改善しようと思っているが、業務量が変わらない。
- ・長年身につけているものなので、状況が余り変わらない中だと難しい。等

(平成30年7月実施「学校現場における業務改善に関するアンケート調査」より抜粋)

～目的(目指す姿)～

「児童・生徒のためであればどんな長時間勤務も良しとする」という働き方を続けることで、教員自身が疲弊していくのであればそれは児童・生徒のためにはならない。

「チームとしての学校」という理念の下、教職員それぞれが、疲労や心理的負担を蓄積して心身の健康を損なうことがないように、これまでの働き方を見直し、本来の業務に専念できる職場環境を整え、ワーク・ライフ・バランスの推進を図ることで、学校教育における教育の質の向上を図る。

～目標～

全ての教員が「業務改善が進んでいる」と実感できるよう、1か月の時間外勤務時間が45時間以内、年休取得を16日以上となることを目指す。

【年次目標】

令和2年度	令和3年度	令和4年度
時間外勤務 45時間以内 70%	時間外勤務 45時間以内 85%	時間外勤務 45時間以内 100%
16日以上年休取得率 70%	16日以上年休取得率 85%	16日以上年休取得率 100%
業務改善が進んでいる 実感率 60%	業務改善が進んでいる 実感率 70%	業務改善が進んでいる 実感率 80%

～進め方について～

次の7つの視点から、「現状と課題」を捉え、それぞれについて取組の「方向性」や「取組事項」を定め、取組が可能なものから着実に実行していくものとする。

- 1 意識改革と学校運営マネジメントの強化
- 2 学校における徴収金事務の改善
- 3 部活動における負担の軽減
- 4 専門スタッフの拡充や職場環境の改善
- 5 学校におけるICT活用の推進
- 6 調査・アンケート方法等の見直し
- 7 会議及び研修の精査・精選等による効率化の推進

～スケジュール及び効果測定～

各取組事項については、取組の実施に向けたスケジュールに基づき、「学校現場業務改善推進会議」において、進行管理を行うとともに、小・中学校に対するアンケートの実施等により、各取組の効果測定を行う。

また、教職員をはじめ、地域や保護者に対して情報発信を行い、学校現場の改善状況について、広く周知を行うものとする。

7つの視点

1 意識改革と学校運営マネジメントの強化

【現状と課題】

学校が抱える課題は、不登校、暴力行為の増加、外国人児童・生徒への日本語指導など複雑化・多様化している。

教員はこれらの課題を真摯に受け止め、多くの業務を担わざるを得ない状況に加え、教育以外の専門性が求められるような事案も増加しており、質的・量的にも対応が難しくなっている。

【方向性】

長時間勤務の是正に向けては、教員が自らの働き方を見直し、勤務時間を意識して働くことが必要である。

そのため、教育委員会としては、勤務時間の上限の設定、勤務時間を意識した働き方の啓発、各学校においては、教職員が担う業務の役割分担や重点目標及び経営方針に勤務時間に関する項目を設けるなど、働き方改革を教職員に浸透させていくような取組が必要である。

取組事項

- 教職員の標準的な業務内容の検討・遂行（教）
- 教職員の勤務時間の管理と市内統一した教員の勤務時間の上限設定（教）
- 勤務時間を意識したマネジメントや働き方に関する研修の実施（教）
- 一定の期間、個別PCへポップアップ表示を行うことによる教職員の意識改革の推進（教）
- 学校事務の望ましい在り方の検討（教）
- 学校と地域、保護者との連携による登下校等の課題解決に向けた体制の整備（教）
- 地域・保護者への働き方改革の発信（教）
- 学校の重点目標や経営方針への働き方改革の明文化（学）
- 各小・中学校によるノー残業デーの設定（学）

2 学校における徴収金事務の改善

【現状と課題】

学校においては、学校給食費、教材費、遠足や修学旅行に関する費用は現金徴収を基本としている。それらに伴う金融機関への入金、未納者への連絡等の事務を各担任、副校長や保護者などが協力して行っている。徴収日には、児童・生徒が現金を持参するケースが多いことから、現金の紛失や盗難など安全管理上の課題もあるなど、学校における徴収金対応は教員にとって大きな負担となっている。

【方向性】

国の「学校給食費徴収・管理に関するガイドライン」等を参考に、学校徴収金の公会計化等適切な徴収方法について、効果的な方策を検討していく。

取組事項

- 学校徴収金の公会計化の方向性についての検討（教）
- 学校徴収金の現金納付以外の方策についての検討（教）
- 学校給食費の徴収において、教員以外の者が実施することについての検討（教）
- 未納がある保護者への対応についての検討（教）

3 部活動における負担の軽減

【現状と課題】

部活動は、体力や技術の向上だけでなく、生徒間のコミュニケーション能力の育成等、貴重な時間であるが、一方で、過度の活動による弊害も指摘されている。

また、教員においては、未経験分野の部活動指導、土日の大会の引率、時には部が設置されていない競技についても引率を迫られる現状もあるなど、対応に苦慮し、部活動に負担を感じている教員もいる。

そのような中、平成31年1月に改訂した「相模原市立中学校部活動指針 改訂版」に基づき、部活動の在り方について共通認識を持つと共に、活動時間の見直しや顧問の複数配置、休養日の設定などを行い、教員の負担軽減を図っている。

【方向性】

「相模原市立中学校部活動指針 改訂版」に基づき、部活動の在り方について更なる意識改革を図るとともに、国の動向、学校の実情に応じた教員の負担軽減を進めていく。

取組事項

- 部活動状況調査の実施（教）
- 複数顧問の配置、部活動指導員の活用（教・学）
- 体育協会や文化団体等と大会・コンクール等の在り方について検討・見直しを実施。（教・学）
- 地域や外部団体との連携（教・学）
- 平日は少なくとも1日、土曜日及び日曜日（以下、「週末」という。）は少なくとも1日以上を休養日とする。（学）
- 練習試合等をやむを得ず週末に続けて活動した場合は、他の週末や祝日に休養日を振り替え、少なくとも週末、祝日は、合わせて月に4日以上休養日が確保できるようにする。（学）
- 夏季休業中の部活動の実施日数は大会を除いて17日間を超えないものとし、学校閉庁期間中は原則として活動しない。（学）
- 1日の活動時間は、長くとも平日では2時間程度、学校の休業日（学期中の週末を含む）は3時間程度とし、できるだけ短時間に、合理的でかつ効果的な活動を行う。（学）

4 専門スタッフの拡充や職場環境の改善

【現状と課題】

これまで、全小・中学校に留守番電話の設置、児童支援専任教諭や指導教諭の配置など教員の負担軽減に繋がる取組を進めてきたが、未だ教員が本来業務にかける時間が十分に確保できていない状況である。

各教員は、授業の準備等を、生徒指導や保護者への対応、諸会議等が終了した後の勤務時間外に実施していることが多く、更なる支援の強化と学校環境の整備が必要である。

【方向性】

学校に必要な専門スタッフの配置、働きやすい職場環境の整備、教職員の健康増進と休暇取得促進を図る取組を進めるとともに、教育以外の専門性が求められるような事案については、学校外の諸機関からのサポート体制を充実させ、学校現場の支援等を進めていく。

取組事項

- 青少年教育カウンセラーやスクールソーシャルワーカー等の専門職員の増員（教）
- スクール・サポート・スタッフの増員（教）
- 観察実験アシスタントや図書整理員、臨時介助員等の非常勤職員の増員（教）
- 教職員の定数や配置の検討（教）
- 長期休業中の学校閉庁日の増設（教）
- 児童・生徒の出欠席等に係る新たな連絡方法の検討と実施（教）
- 職員室の働きやすい職場レイアウトの検討、配置転換の実施（学）

5 学校におけるICT活用の推進

【現状と課題】

令和元年度までに、全小・中学校に統合型校務支援システムを導入し、業務の効率化を進めている。その反面、既存の学校間ネットワークである「e-ネットSAGAMI」や「校内LAN」の効果的な活用は進んでいるとは言えない現状であり、効果的な活用に向けた研修等を進め、一人ひとりがシステムを十分に活用できる環境づくりが求められている。

【方向性】

既存の学校間ネットワークである「e-ネットSAGAMI」や「校内LAN」の効果的な活用を推進するとともに、統合型校務支援システムと成績処理や通知表及び指導要録の一元化を検討する。

取組事項

統合型校務支援システムの継続的なサポートや導入における効果検証（教）

「e-ネットSAGAMI」や「校内LAN」における共有ファイル機能の活用による業務の効率化の推進（教）

統合型校務支援システムの機能の充実（教）

6 調査・アンケート方法等の見直し

【現状と課題】

国や県、市長部局や教育委員会などからの調査・アンケート、提出書類の作成等については、その都度副校長をはじめ多くの教員が対応している。内容については多岐に渡っており、授業の合間や放課後の時間を使い対応しているため、本来業務である授業準備などの時間に影響が出ている状況である。

【方向性】

「市立小・中学校への通知・配付文書等に係る事務取扱要領」に則った運用を徹底するとともに、調査・アンケートの中には、内容が類似しているものも多いため、重複がないよう、教育委員会は、調査実施部署と内容を共有し、学校現場の負担軽減を図る。

取組事項

e-ネットSAGAMIのアンケート機能やアンケート集計ソフトウェアの利用の徹底（教）

「市立小・中学校への通知・配付文書等に係る事務取扱要領」の全庁的な周知徹底（教）

就学奨励金に係る提出書類等の簡略化やマニュアルの作成（教）

教育委員会による就学奨励金の申請受付の実施（教）

7 会議及び研修の精査・精選等による効率化の推進

【現状と課題】

参加を求められているにもかかわらず、教員の専門性を要しない会議もあり、教員の出席の必要性について改めて見直す必要があるほか、学校内の会議についても、時間の短縮や回数を減らすなどの工夫が求められる。

また、会議、研修は、日中に開催されることが多く、担任に替わって授業を行う補填教員の配置が難しい場合は自習対応となるなど、授業の進行等に支障をきたす場合がある。

【方向性】

教育委員会が主催する会議、研修については、内容を吟味し、出席が必要な会議や研修を精査・精選するなど、教職員の本来業務のための時間確保に向けた対策を講じる。また、学校の会議では、回数、時間を見直しスリム化を図る。

取組事項

教員の出席が必須となっている会議等の出席方法の精査（教）

教員の研修回数や実施時期など研修の効果検証及び見直しの実施（教）

校内会議の在り方について、モデルを提示・実践（教・学）

【参考】

新しい時代の教育に向けた持続可能な学校指導・運営体制の構築のための学校における働き方改革に関する総合的な方策について（答申）

平成 31 年 1 月 25 日 中央教育審議会

学校における働き方改革に関する取組の徹底について（通知）

平成 31 年 3 月 18 日 文部科学事務次官通知

相模原市立中学校部活動指針 改訂版

平成 31 年 1 月 相模原市教育委員会

学校における働き方改革の推進に向けた夏季等の長期休業期間における学校の業務の適正化等について（通知）

令和元年 6 月 28 日 文部科学審議官通知